

[数学基礎]

- (1) 2次元平面上の直交する基底ベクトルを (\bar{v}_1, \bar{v}_2) として, 次の2つの線形演算子 $\hat{R}(\theta), \hat{S}(\eta)$ を考える.

$$\begin{cases} \hat{R}(\theta) \bar{v}_1 = \bar{v}_1 \cos \theta + \bar{v}_2 \sin \theta \\ \hat{R}(\theta) \bar{v}_2 = -\bar{v}_1 \sin \theta + \bar{v}_2 \cos \theta \end{cases} \quad \begin{cases} \hat{S}(\eta) \bar{v}_1 = \eta \bar{v}_1 \\ \hat{S}(\eta) \bar{v}_2 = \bar{v}_2 / \eta \end{cases}$$

ただし, $\theta, \eta (> 1)$ は実数である. 原点を中心とする単位円上の点 $\bar{x} = x_1 \bar{v}_1 + x_2 \bar{v}_2$ について以下の設問に答えよ.

- (a) $\bar{x}' = \hat{R}(\theta) \hat{S}(\eta) \bar{x}$ を求めよ.
 (b) \bar{x} が円周上を1周するとき, \bar{x}' の軌跡と単位円との関係を直交座標 (x_1, x_2) 上に図示せよ.
- (2) 行列に関する以下の設問に答えよ.

- (c) $\sigma_1 = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}, \sigma_2 = \begin{pmatrix} 0 & -i \\ i & 0 \end{pmatrix}, \sigma_3 = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}$ を Pauli 行列と呼ぶ. 2行2列の行列は

3つの Pauli 行列と単位行列 $E = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ の線形結合で書けることを示せ.

- (3) x の関数である N 次正方行列 $A(x) = (a_{ij}(x))$ ($1 \leq i, j \leq N$) とその行列式

$|A(x)| = \sum_{P \in S_N} \text{sign}(P) a_{1P(1)}(x) \cdots a_{NP(N)}(x)$ を考える. ここで, 和は N 次の置換 P すべてについてとるものであり, $\text{sign}(P) = 1$ (P が偶置換のとき), $\text{sign}(P) = -1$ (P が奇置換のとき) である. 以下の設問に答えよ. ただし, $A(x)$ の各要素 $a_{ij}(x)$ は x で微分可能であり, その行列式は $|A(x)| > 0$ とする.

$$(d) \frac{d}{dx} |A(x)| = \sum_{k=1}^N \begin{vmatrix} a_{11}(x) & a_{12}(x) & \cdots & a_{1N}(x) \\ \vdots & \vdots & & \vdots \\ \frac{d}{dx} a_{k1}(x) & \frac{d}{dx} a_{k2}(x) & \cdots & \frac{d}{dx} a_{kN}(x) \\ \vdots & \vdots & & \vdots \\ a_{N1}(x) & a_{N2}(x) & \cdots & a_{NN}(x) \end{vmatrix} \quad (I) \quad \text{と}$$

書けることを示せ.

- (e) 次の微分方程式が成り立つことを示せ.

$$\frac{1}{|A(x)|} \frac{d}{dx} |A(x)| = \operatorname{tr} \left(A^{-1}(x) \frac{d}{dx} A(x) \right) \quad (\text{II})$$

ここで、 B を任意の N 次正方行列 $B = (b_{ij})$ とするとき、 $\operatorname{tr}(B)$ は対角要素の和 $\sum_{i=1}^N b_{ii}$ を意味する。

- (f) B を x に無関係な N 次正方行列とし、 $A(x) = e^{xB}$ を考える。計算の過程も明示し、行列式 $|A(x)| = |e^{xB}|$ を $\operatorname{tr}(B)$ を使って求めよ。